

# 地域の会

～ 11月定例会・12月定例会 概要 ～

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

## 年に一度の「情報共有会議」を開催しました。



第233回定例会（情報共有会議）

今後の「地域の会」定例会の開催案内 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

### 第236回定例会

日時：2023年2月1日（水）18:30～20:30  
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

### 第237回定例会

日時：2023年3月1日（水）18:30～20:30  
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

新型コロナウイルス感染症対策により、傍聴席は1F実験室に設けず。定員は15名（先着）です。

地域の会の活動はホームページでご覧いただけます。 <https://www.tiikinokai.jp>

## 年に一度の「情報共有会議」を開催 ～委員・オブザーバーの所感～



7機関(国、県、市、村、事業者)のオブザーバー代表者を迎え、「情報共有会議」を今年も開催した。委員は、「今思うこと、伝えたいこと」をテーマにそれぞれの所感を表明した。その後、意見交換を行った。

### 〔委員所感〕

**意見** 電力料金の高騰を大変危惧している。原子力

損害の賠償に関する法律(以下、原賠法)が東日本大震災以後に見直された点があれば教えてほしい。また、東日本大震災は異常に巨大な天災地変に該当しないと判断されたが、それについて見直しはあったのかお聞きしたい。

柏崎刈羽原子力発電所

1号機の運転開始から38年。原則40年、最長60年と定めた原子炉等規制法の規定を削除し、安全に使えるものは以降も使うことに異論はない。原賠法の規定範囲に該当しない原子力災害は、すべて国が責任を持つことにしてほしい。

**意見** 国の安定したエネルギー確保のために再稼働を望む。廃炉では希望が持てない。柏崎刈羽原子力発電所は大切な雇用の場。社員や協力企業の皆さんには海岸清掃や地域の祭りなどに積極的に参加していただき深く感謝している。

**意見** 国の高騰は一般家庭の負担や会社経営にも大きな影響を与えている。世界的にエネルギー消費が増える中、日本も中長期的にエネルギー資源を確保する必要がある。国には前面に立ってエネルギー政策を着実に進めてほしい。また、東京電力には核物質防護問題への対応や安全性をさらに向上させて原子力改革を着実に進め、早期再稼働

をしてほしい。

をしてほしい。

**意見** 東京電力が改善措置計画報告書を提出して1年。これまで安全対策工事未完了に関する総点検、核物質防護に関して

も改善が行われてきた。今後安全性を第一として着実に取組を進めてほしい。立地地域住民として自発的に学ぶことも必要。エネルギー政策や災害時の避難計画など住民目線の分かりやすい情報発信を引き続きお願いしたい。避難は人命が最優先と重々承知しているが、ペットについての対策があれば教えてほしい。

**意見** 東京電力は改善措置計画の成果報告書を来春以降に提出予定としている。是正措置命令の解除と再稼働に向けてスピード感を持ち、意思統一して進めてほしい。ハード面の整備やソフト面の改善と共に地元理解無くして再稼働はない。地域の人たちの信頼回復に努め、地元住民を裏切ることのないよう社内改革、意識改革をお願いしたい。

**意見** 青森県むつ市の中間貯蔵施設の保管期間は50年。高レベル放射性廃棄物の最終処分場について現在の状況を教えてほしい。世界の情勢から、日本のエネルギーの主流である液化天然ガスの供給体制は大丈夫か。また、太陽光パネルの寿命は20〜30年、有害物質を含むため処分問題があるのではないか。

東京電力は東日本大震災後、経験のない運転員が増えていて再稼働に対応できるのか。行政には現段階での最善な避難方法の周知、避難訓練に取り組んでほしい。避難困難者への配慮も忘れずに取り組んでもらいたい。

**意見** 柏崎刈羽原子力発電所7号機フィルタベントのフランジの形状設定誤りについて原因究明や対策の実施はどのように行われたか。内製化についての進捗状況、連携・協力はどの程度構築されたのかお聞きしたい。現状、発電所に重大事故が起きる可能性があるのは、テロや大規模地震の場合が考えられるが、住民が多大な被害を受け避難

できないことを十分に考えた対策をお願いしたい。

**意見** 国は設置許可済みの原発を再稼働する方針を宣言したが、東京電力に核施設を扱う企業としての資質はない。

中越沖地震で被災した設備の復旧工事、福島事故後の安全対策、テロ対策などで、東京電力自身も全容を把握できないほどである。BWRの水素爆発対策はできておらず、加えて原発はテロや戦争時の標的にされやすい。運転期間延長ができるような状況にはない。柏崎刈羽原子力発電所は再稼働をしないこと、使用済燃料を少しでも

安全なかたちで保管することを切に望む。

**意見** PAZ住民は被ばくする前に避難するというのが避難計画の基本だが、複合災害ではそれが破綻している。計画の根本的な見直しが必要ではないか。被ばくを強いる可能性があることをPAZ住民は理解してくれると考えているのか。避難計画の立案で市民の被ばく線量をどの程度までに抑えようと考えているのか。

また、避難計画において市は避難先を明確にしている。市民としては公開されないことに不安を覚える。避難先の詳細を示してほしい。

稼働してほしくない。

**意見** 国は原発を進めるにあたり、安全性を全てに優先させると強調する。火山国のイタリアは原発を止め、アイルランドは原発を持たない、イスラエルは戦争が多く原発は造らないとしている。安全性を優先させるのであれば世界を見做った判断をしてもらいたい。ぜひ、核燃料サイクル政策の見直しを図ってほしい。

**意見** 国策である原子力は立地地域だけの問題なのか。他地域が他人事であることがエネルギー政策のそもそもの問題ではないか。国が前面に立つとは具体的にどうするつもりなのか。国の責任と、覚悟をどのくらい持っているのか聞かせてほしい。県・市町村は住民の私益と公益に沿うように交渉や努力を続けてほしい。

地域の会で発言される意見や考え方について、オブザーバーが傾聴力を持って向き合うことで、会の意義が高まることをご理解いただきたい。

**意見** 県の避難委員会は4

56点の論点、課題をまとめただけで役割を終了した。県はこの課題をどのように確認し対応していくのか。何ら解決しないまま原発を動かすことだけはしてほしくない。解決策が見出されず実効性のある避難計画の見通しが立たない場合には再稼働せずに廃炉という選択肢もあるのではないかと。避難計画が整ったことを確認して再稼働する。これが当たり前の事ではないか。

**「オブザーバー所感」**  
■原子力規制庁  
武山地域連絡調整室  
地域広報官……………

地域の会には日頃、柏崎刈羽原子力規制事務所が参加している。原子力規制委員会（以下、規制委員会）の活動を知っていたら、良い機会として今後、協力したい。規制事務所は、日々、発電所に出向き事業者からの報告だけでなく、自らもフリーアクセスで監視を行っている。

BWRの水素防護に関して、知見の規制の反映に向けた基準を検討している。水素以外の可燃性ガスについての議論もされている。

柏崎刈羽原子力発電所について、現在7号機は許可手続きが終わり、使用前事業者検査に係る確認を行っている。ただし、核物質防護の問題があったので、燃料を移動することはできない状態で、そういった段階での検査は出来ない状況である。

核物質防護に係る追加検査については、一つずつ



**意見** 柏崎刈羽原子力発電所6・7号機の安全対策・改善処置に対する具体的な審査の見通しは立っているか。規制サイドの責任とは何か。エネ庁の「国が前面に立つ」ことの具体策やスケジュールはあるか。知事は再稼働についての具体的な議論・判断の行程をいつ示すのか。東京電力は引き続き徹底した総点検を行い、日本のエネルギー供給を担う原子力発電所で働く意義、プライドを持ち、協力企業と一体になり原子力改革に取り組んでほしい。



検査をしているところ、見通しを申し上げるのは困難な状況である。着実に検査をしていきたい。

規制委員会の組織理念の中に「原子力に対し確かな規制を通じて人と環境を守る」という使命がある。この使命を果たすべく、原子炉等規制法の規制を厳正に行うことが我々の責務と考えている。

■資源エネルギー庁  
山田資源エネルギー政策  
統括調整官



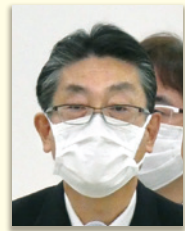
福島事故の経験や反省、教訓を肝に銘じて取り

組むことがエネルギー政策の原点と考える。福島復興、再生に最後まで全力で取り組むと共に、今後原子力を活用し続ける上で安全神話に陥った反省を一時たりとも忘れてはならない。エネルギー政策においては安全性を前提に安定供給を第一として経済効率と環境適合の両立を図ること、特性を補完し合う組み合わせと多層的な供給構造の実現が重要と考えている。工

エネルギー価格高騰への対応も喫緊の重要課題である。

安定供給を確保すべく原子力を含めてあらゆる選択肢を追求することは重要。原子力について再稼働への関係者の総力の結集、安全確保を大前提とした運転期間延長、次世代革新炉の開発・建設等について年内を目途に結論を得るよう検討を進めている。再稼働を進めるにあたり避難計画の策定など地域の実情に応じた課題に取り組み、地元の理解を得られるよう国が原子力の必要性を丁寧に説明していく。最終処分については社会全体で必ず解決しなければならぬ課題。科学的特性マップの公表、説明会を行っている。使用済燃料の再処理はわが国の基本の方針である。中間貯蔵期間終了までに搬出し、再処理工場で処理する。立地地域のみならず消費地も含め、エネルギー政策、原子力政策への理解が深まるよう取り組む。また、万が一事故が発生した時、賠償額が賠償措置額を上回る場合、原子力損害賠償・廃炉等支援機構法に基づき被害者救済の観点から必要な措置を講じ、関係省庁と連携して対応していきたい。

■内閣府  
荒木政策統括官  
(原子力防災担当)



再稼働の如何に關わらず原発や核燃料がある

限り地域住民の安全・安心の観点から原子力防災体制の充実・強化に取り組んでいる。計画は各自体が個別に作成するが、財政支援や地域の原子力防災協議会の作業部会も含め、関係自治体と一緒に充実に努めている。年1回の原子力総合防災訓練については、原子力災害対応の実効性向上を掲げ、対応要員の対応力向上、住民の理解促進、さらにシナリオ型訓練だけでなくブラインド型訓練も行っている。今後関係自治体とともに実効性向上に向けて取り組んでいきたい。



■新潟県  
花角知事



昨年4月、県は規制委員会に対し、発電原子

炉の運転を的確に遂行するに足りる技術的能力を東京電力が有しているか改めて評価するよう要望した。規制庁長官からは、県と目指すところは同じという回答を得た。今年4月に公表された中間取りまとめについて県技術委員会が説明を受けたが、今後追加検査の結果を確認をしていく。

先月29日に原子力総合防災訓練を行った。今後条件を変えながら訓練を繰り返し行い、原子力災害時における対応力向上を図っていきたい。

原発事故に関する3つの検証については、既に技術委員会、健康・生活委員会の生活分科会、避難委員会の検証報告書がまとまり、残る健康分科会で検証作業を進めている。今年度も説明会・意見交換会を開催する。避難時のペットの扱いについては、県が作成し

た「ペット同行避難所運営マニュアル」の活用などを通じ、動物同行避難の体制、整備を支援していきたい。また、住民への周知に努めるよう市町村に働きかけていきたい。

原子力災害時避難経路阻害要因調査については、円滑な避難のための改善案が示されている。その実現に向け国や市町村、関係機関と連携し取り組んでいきたい。

実効性のある避難計画については、避難委員会の報告書で示された内容を整理し、県が取り組むべき事項については責任をもつて対応・検討を行い、国や東京電力の所管する事項については対応を求めていきたい。

原発の再稼働については、3つの検証結果が示された後に具体的な手続きを含めて議論を始めたい。地域の皆様とコミュニケーションを取り、県民生活の安全と安心を第一に取り組んでいきたい。



■ 柏崎市  
櫻井市長



地域の会  
は来年5  
月で20年  
を迎える。  
日本で唯

一の会であり市長として誇  
らしく、活動に対し市民を  
代表して感謝申し上げます。  
私は再稼働の意義を認め、同時に原子力を減らし  
ていき再生可能エネルギー  
も柏崎の産業にしてい  
きたいと申し上げ再選し  
た。再稼働の際には5年以  
内に1から5号機の廃炉  
計画を示してほしいと公  
言している。廃炉の時期に  
至った場合、市内企業に利  
益率の高い分野に参入し  
てもらえるよう準備を進  
めている。

避難計画については国  
の指針、考え方を踏襲して  
おり、複合災害の場合はま  
ず身を守ることを優先す  
ることとしている。被ばく  
量については国の考え方  
を基にして上限は示して  
いない。  
避難所を明確にしてい  
ないことに関しては、住民  
が直接避難所へ向かい混  
乱するのを避けるため敢  
えて示していない。避難所

が開設されているかなど  
を避難経由所を通して確  
認して避難していただき  
たいと考えている。

■ 刈羽村  
品田村長



全面自由  
化された  
電力の価  
値や安定  
性が揺ら  
いでいることを非常に残  
念に思う。国のエネルギー  
の根幹を成す電力が高騰  
し、大きなパフォーマン  
スを発揮するはずの原子力  
発電所が止まったままに  
なっていることをよく考え  
なければならぬ。原子力  
発電はストーブのスイッチ  
のように簡単ではない。安  
定的に電力を供給し確保  
していくことはとても大  
事なこと。廃炉だけでは希  
望がない、というお話があ  
った。廃炉は目的ではない  
が、廃炉の結果として新し  
いビジネスが生まれる可  
能性があることは評価し  
たい。

人類は核や放射線から  
たくさんのお恵を受けて  
いるという事実をしっかり  
認識する必要がある。

■ 東京電力  
ホールディングス(株)  
小早川社長



一昨年来  
から当社  
一連の不  
適切事案  
により地

域、新潟県の皆様にご心配  
をお掛けし改めてお詫び  
申し上げます。発電所では現  
場と一体になり引き続き  
改革に取り組んでいる。

昨年9月に規制委員会  
へ改善措置計画を提出し、  
指摘された36項目につい  
ては全て改善を実行中  
である。対策の有効性を検証  
しながら核物質防護機能  
が維持・強化されることを  
確認し、報告書を取りまと  
めて地域の皆様に説明を  
行う予定である。

安全対策工事も完了に  
対する総点検が一巡し、今  
後は使用前事業者検査の  
完遂を目指す。原子力改  
革については所長が先頭  
に立ち、外部専門家の登用  
も進め、地域の皆様に信頼  
いただける発電所の実現  
に向けて体制強化を図る。  
また、発電所内の本社機能  
移転を進めており202  
6年度までに300名程  
度の社員移転を実施して

いく。地域のイベントやさ  
まざまな活動に参加し、発  
電所がこの地にあつて良か  
つたと思つていただけるよ  
う取組を進めたい。

現在、一つひとつ着実に  
改善を進めており再稼働  
の明確な時期を示せる状  
況にはない。日本全体の工  
ネルギーセキュリティの確  
保が危機的な状況である  
ことを踏まえ、原子力を再  
稼働しエネルギーの需給  
を安定させることは当社  
の責務であると認識して  
いる。引き続き所員一同、  
協力企業の皆さんとも  
に改善に取り組んでいき  
たい。



【主な質疑応答】

Q 水素防護対策候  
補に係る簡易評価結  
果について、躊躇なく  
ベントを実施するとい  
うのは格納容器の早  
期ベントのことか。ま  
た、それを実施するこ  
とで原子力災害対策  
指針を修正する予定  
があるか。

Q ベントとは格納  
容器ベントを指  
す。ベントとの関係で原子  
力災害対策指針を変える  
予定はないが、必要であ  
れば見直さなければなら  
ないと考える。

Q 市は最終の避難  
所へ市民が勝手に  
行く困るから公表し  
ないという回答だ  
が、避難する身として  
は重要な問題。公開は  
できないのか。

Q 市長  
避難の際、スク  
リーニングポ  
イント、避難経由もスキ  
ップして、いきなり避難  
所に向

かう事態が予想される。避難所の開設ができていない場合もあり、そのための対応とご理解いただきたい。

**Q** 災害の状況により避難所が変わる場合もあると聞いた。避難訓練でぜひ避難経路から避難所へ向かう訓練をしてほしい。

避難所が変更される場合もあると聞いた。避難訓練でぜひ避難経路から避難所へ向かう訓練をしてほしい。

**知事** 今回の避難訓練でも避難所まで行っており、避難所に行くことはこれまでの訓練でもしている。

一般的には(市町村の計画で定めてい)受入れ市町村の避難所が避難所になるが、様々なケースを考える必要がある。今後は、避難所までの避難訓練を拡大することを考えている。

**新潟県** 一般的には(市町村の計画で定めてい)受入れ市町村の避難所が避難所になるが、様々なケースを考える必要がある。今後は、避難所までの避難訓練を拡大することを考えている。

**Q** 内閣府・原子力防災担当の業務の役割を教えてください。

**内閣府** 原子力防災そのものが担当で主

たるもの。国の関係機関調整を含め事務局としてさまざまな支援を行う。また、地域の原子力防災協議会の庶務を担い、関係機関に集まってもらう。協議会の下での作業部会では自治体の方等関係機関の担当者と一緒に実務レベルの検討を行っている。

**Q** 電気料金の高騰は単に電気だけの問題に留まらない。さまざまな問題に波及することを国民に対して啓もうする活動を行ってほしい。

電気料金の高騰は単に電気だけの問題に留まらない。さまざまな問題に波及することを国民に対して啓もうする活動を行ってほしい。

**資源エネルギー庁** 広報・理解活動が足りないことを反省している。電気料金の問題、燃料調達の問題等、非常に危機的な状況という意識はもろろある。原子力だけでなく再生エネや資源の確保などエネルギー問題は広く、全体としてGX(グリーン・トランスフォーメーション)実行会議で議論されている。方向性、具体的内容を年内にまとめ対応していきたいと考えている。

広報・理解活動が足りないことを反省している。電気料金の問題、燃料調達の問題等、非常に危機的な状況という意識はもろろある。原子力だけでなく再生エネや資源の確保などエネルギー問題は広く、全体としてGX(グリーン・トランスフォーメーション)実行会議で議論されている。方向性、具体的内容を年内にまとめ対応していきたいと考えている。

**Q** 事故が起きて私たちが避難する場合、避難所は確実に確保されるのか。県はきちんと調整できるのか。

**知事** 避難先として予定されている市町村との間で了解は取れている。

避難先として予定されている市町村との間で了解は取れている。

**Q** いざとなったら受け入れてもらえないという心配はしなくてもよいか。

**知事** どの避難所をどのように開設するかという具体的な問題は、その時の状況によると思うが、受け入れていただくことについて県は責任をもって調整をする。

どの避難所をどのように開設するかという具体的な問題は、その時の状況によると思うが、受け入れていただくことについて県は責任をもって調整をする。

関する議論を行い、規制委員会とは違ったGOサインを二重に出すことで再稼働が行われると考えるがそれでよいか。

**知事** 最終的に国の確認結果が出て、

最終的に国の確認結果が出て、国として安全基準をクリアしたと考えればいずれ地元の同意を求めてくる場面が来る。その時にどう応えるかという議論を3つの検証が終わった後から始めていくことになる。

**Q** 国が進めている核燃料サイクルについて、今、プルトニウムは47tあり国際的に減らすよう要請され努力しているというが、プルサーマルを行う原発を増やす見通しはあまりない。プルトニウムをなくす方向を目指しているのか。

国が進めている核燃料サイクルについて、今、プルトニウムは47tあり国際的に減らすよう要請され努力しているというが、プルサーマルを行う原発を増やす見通しはあまりない。プルトニウムをなくす方向を目指しているのか。

工場の最大能力で処理した時に回収されるプルトニウムは66t、今2030年までに12基のプルサーマル発電を実施する計画の中で利用量が66tと承知している。プルサーマルを利用する発電所が増えていけば、この66tを超える消費が想定されることになり、さまざまな仕組みによりプルトニウムの適切な管理と利用を行うていく。政府として核燃料サイクルを進めていくと考えている。



## 情報共有会議を終えて(フリートーク)



第234回定例会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会議時間を短縮して開催した。初めに前回定例会以降の動きについて各オプザーバーから説明を受けて質疑応答を行った。会の後半では、11月に開催した情報共有会議について、委員から質疑、要望等が出され、オプザーバーから質疑に対する応答や感想を聞いた。

〔前回定例会以降の動きについて〕

Q

循環水系配管A・B・Cで、Aが欠損しているところ3分の1くらい冷却能力が喪失するということか。また、今

後どのような対策を考えているか。

東京電力

循環水系配管はA・B・Cの3系統あり、蒸気を冷却する復水器に1つずつ繋がっており、1つがダメになると3分の1の冷却能力が低下する。A・B・Cの配管は繋がっているため1つの系統がダメでも40%くらいまで出力を低下させながら運転を継続することが出来る。当該箇所は人身災害防止の観点から点検ができていなかったが、その他の箇所は定期検査ごとに人が入り点検を実施していた。今後は他の箇所と同じ点検を同じ頻度で行っていく。現在の確認運転終了後、配管中の水を抜き点検する予定。

Q

柏崎刈羽原発では、高経年化した原子炉の劣化状態は30年分試験片を入れて調べて、定期検査の際に調べると説明を受けた。国は60年に稼働を延ばすというが、健全性は何を根拠にどのように検査していくのか。

規制庁

高経年化した原子炉の劣化状態は試験片で確認している。プラントや発電所ごとに状況は違うが、試験片には確かに限りがあり、例えば分割するとか、改めて試験片を入れる等、対応としてはいろいろある。そういうことも含め、どのように技術評価を行っていくか今後検討することになると思う。

〔情報共有会議を終えて〕

意見) 県の原子力防災の避難訓練では県や市、村も調整を行い、それぞれの避難所まで具体的に避難するような訓練を行ってほしい。住民に避難先を公開してもらいたい。

意見) 情報共有会議を聞き

に来る市民の方が少ない。たくさんの方に聞いていただきたい。躊躇なくベントする水素防護対策、水素爆発しないために早めにベントすることが明確になったのであれば、被ばくの可能性が高い避難の方法についても見直していただきたい。

意見) 関係機関の方々の感

想や意見、特に知事、市長、村長の考えや率直な意見を聞けたことは大変有意義であった。

意見) 原子力防災の避難訓練を実施する時には、例

えば換気扇を閉めるなど、無理のない程度での行動を促すことで、参加意識が高まるのではないか。

意見) 東京電力は是正措置

命令の解除と再稼働に向け、計画性を持って確実に実行してほしい。また、地元理解無くして再稼働はあり得ないし、安全性が高まったことを理解できるよう努力してほしいと申し上げたが、これは東京電力だけでなく国や自治体にも必要だと考える。国や自治体の活動が地元の理解にも通じると思う。風評被害の払しょくについても国や地元自治体ももっと責任をもって対応していただきたい。

意見) 配管の欠損状況とい

う資料を見た。今後、こういったことがないよう総合的なシステムを構築し、再稼働に向けて進め

てもらいたい。

**意見** 東京電力社員が地元  
の行事や清掃活動に参加  
してくれて非常に助かっ  
ている。今後も期待して  
いる。

**意見** 普段直接話をする事  
のないオプザーバーと意  
見交換できたことは非常  
に有意義だと思っている。  
震災以降、原子力災害を  
起こさないということだ  
いろいろな規制ができ、  
各電力事業者が努力し  
ている。本当に期待して  
いる。

**意見** 国が前面に立つと言  
ったからには推進省庁で  
あるエネ庁が原子力発電  
の必要性を、安全性の担  
保については監督官庁で  
ある規制庁が見逃さない  
というかたちでいてくれ  
たら事業者の努力、規制  
側の努力の双方で安全が  
高まる。そういうことを  
強く発信、表明してい  
ただきたかった。発言の機  
会と時間が決められた中  
で、可能な限り簡潔明瞭  
に伝えることに委員も努  
力するべきだ。

**意見** 避難訓練が実効性の

あるものになるまで再稼  
働はするべきでない。避  
難訓練がきちんとできる  
ようになった段階で、原  
発を動かす。それができ  
ないなら止めるべきと二  
十数年、県、国、市に対  
していろいろな機会でも主  
張してきたが、回答は努  
力しますというだけで変  
わらない。この主張を繰  
返していかなければなら  
ないと思っている。

**意見** 各オプザーバーの代  
表者、自治体の首長の  
方々にお集りいただく場  
を設けられるということ  
は本当に有意義だと思っ  
ている。委員の質問に対  
してもっと踏み込んだ回  
答をいただきたいかった。

### 「オプザーバーの感想」

#### 規制庁

情報共有会議は、  
我々規制機関に  
とつても非常に有意義な場。  
普段皆さんからいただいた  
質問・意見は本庁と共有し  
ているが、組織の代表が直  
接、地域の意見を聞く良い  
機会だと思っている。国と  
してもっと積極的に発信、  
広報すべきという意見は私  
自身もそう感じている。規

制事務所の検査官は毎日発  
電所へ行き、日々巡視をし  
ているが、そういった地道  
な活動の説明等、情報共有  
の仕方を検討していきたい  
と思うing。

#### 資源エネルギー庁

国が前面  
に出てし  
っかり広報すべきという御  
意見は、現場にいる私も  
常々悩んでいる点で、コミュ  
ニケーションが足りないとい  
自覚している。本庁でもG  
X（グリーン）トランスフォー  
メーション（会議、原子力  
小委員会での議論の中で、  
改めて国が前面に立つて対  
応するということが検討を  
進めている。

#### 新潟県

委員の皆様  
の意見を拝聴し、原子  
力発電所は地域にとつて大  
きな関心事であり、さまざま  
な思いがあることを改め  
て強く認識した。県として  
は今後も委員の皆様との  
コミュニケーションの場をい  
ただきながら、県民生活の  
安全と安心を第一に取り組  
みたいと考えている。なお、  
委員から訓練の中で避難所  
についていけないとの発言が  
あったが、誤解なので改め  
て説明させていただく。

#### 柏崎市

地域の会は他に  
類をみない素晴  
らしい活動を行っている  
市長も常日頃から申し上  
げている。引き続き緊張感  
を持ち臨んでいきたい。避  
難訓練に関して、参加意識  
を高めるための工夫が必要  
との意見は今後検討したい。

#### 刈羽村

委員の皆さんの  
言葉の熱量と私  
どもの首長とのやり取りの  
中で、より一層皆さんの意  
思・意見等が伝わり、大変  
良い会議だと思っている。  
本年度、刈羽村の訓練は一  
般公募で参加者を募った。  
また、風評被害に対しては  
実際に住民の方に福島県に  
行ってもらう、福島県の現  
状を見ていただく取組を行  
っている。今後も創意工夫  
をして進めていきたい。

#### 東京電力

発電所への期待、  
懸念に対する率  
直な意見をいただき非常に  
有意義な会議であったと感  
じている。発電所内の雰  
囲気が変わってきたこと、所  
員による地域活動への参加  
を評価していただいたこと  
を所長として特にうれしく  
感じ、発電所の改革に継続  
して取り組んで行く決意を  
新たにしている。

#### 編集後記

新しい年を迎えても  
諸物価値上げの波は収  
まりそうもありません。  
エネルギー関連供給  
の不安定や円安が大き  
く影響していると感じ  
ています。電気料金も  
値上がりが続いています。  
さらに、自由料金プ  
ランでは昨年12月に規  
制料金プランでは春頃  
燃料費調整単価の上限  
が撤廃されます。国か  
らの補助金があります  
が、益々負担増になり  
ます。電力の安定供給  
が価格も含めてより一  
層重要になります。水  
力、太陽光、風力発電の  
有効活用や現状では安  
全を確保した上での原  
子力発電の活用は避け  
て通れないと思いま  
す。私たちも東京電力柏  
崎刈羽原子力発電所の  
再稼働へのプロセスを  
注意深く見守り、提言  
をしていかなければな  
りません。そのため  
も、それぞれの立場を  
尊重した上での活発な  
発言が必要になってい  
きます。（高木委員）

